

〔報告書〕

件名	令和4年度愛媛県自殺予防対策連絡協議会
日時	令和5年2月9日（木）10：00～11：30
方法	オンライン開催（Zoomミーティング）
出席委員	25機関 25名（別紙出席者名簿のとおり）
事務局	6名（別紙出席者名簿のとおり）
協議内容	<p>1 愛媛県の自殺の現状について [資料1]</p> <p>【事務局 説明】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自殺者数は減少傾向であったが、令和元年及び2年は前年より増加。令和3年は前年より減少（総数226人、男性158人、女性68人）。</li> <li>・令和3年の年齢階級別自殺死亡率が全国より高いのは、男性では40・50・60歳代、80歳代以上、女性では20歳代。</li> <li>・令和3年の職業別構成比が全国より高いのは、男性では「自営業・家族従業者」「その他の無職者」、女性では「年金・雇用保険等生活者」「その他の無職者」。</li> <li>・全国では自殺者の20%程度に自殺未遂歴があり、愛媛県も同様。</li> </ul> <p>2 自殺予防対策の取組みについて</p> <p>ア) 自殺総合対策大綱について [資料2]</p> <p>【事務局 説明】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな自殺総合対策大綱が令和4年10月に閣議決定。</li> <li>・自殺対策の数値目標：令和8年の自殺死亡率を13.0以下</li> <li>・内容は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を踏まえた対策の推進、女性や子ども・若者の自殺対策を更に推進等。</li> </ul> <p>イ) 愛媛県・心と体の健康センターの取組み [資料3・4]</p> <p>【健康増進課 説明】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市町は地域の実情に合った自殺対策の取組を実施。</li> <li>・保健所及び心と体の健康センターでは、圏域等の広域における取組を実施。</li> <li>・県の委託事業「こころといのちのライン相談」は、学生を含めた若年層の利用が多い。「こころといのちのほっとダイヤル」はフリーダイヤルで平日の17時から翌日の9時、休日は24時間体制。</li> <li>・今後も関係機関と連携・協同して自殺対策を総合的に推進したい。</li> </ul> <p>【義務教育課 説明】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特に長期休業前後には、自殺予防対策への注意喚起等を繰り返し通知。</li> <li>・SOSの出し方に関する教育は、全ての公立小中学校で実施予定。</li> <li>・スクールカウンセラー等の教育相談員を学校に配置し、教育相談体制を強化。</li> </ul> <p>【人権教育課 説明】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学生から高校生までを対象とした「いじめ相談ダイヤル24」を24時間体制で実施。いじめ以外の相談もあり。</li> <li>・中学生及び高校生を対象とした「SNS相談ほっとえひめ」を実施。専門の資格をもつ相談員が対応。緊急対応が必要な相談があった場合は、関係機関と連携して子どもを守る体制を構築。</li> </ul> <p>【労政雇用課 説明】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業におけるワークライフバランスの充実のため、中小企業を対象とした「えひめ仕事と家庭の両立応援企業」の認証を実施。また、愛媛労働局と連携して、県内企業の働き方改革ワンストップ支援拠点として「働ナビえひめ」を運営、認証支援を実施。今年度からは直接企業にアプローチを行う「プッシュ型働き方改革意識醸成出前講座」により支援を強化。</li> </ul> <p>【長寿介護課 説明】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャラバンメイト、認知症サポーター数は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により研修等が少なくなっているが、令和4年12月末現在で178,201人。</li> </ul> <p>【心と体の健康センター 説明】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域自殺対策推進センター運営事業、人材育成、相談支援、技術支援を実施。一般精</li> </ul>

協議内容	<p>神保健福祉相談では、人とのつながりを求める内容の電話相談が増加。</p> <p>ウ) 関係機関・団体の取組み [資料5・6]</p> <p><b>【出席者からの意見等】</b>  (新型コロナウイルス感染症による影響、勤務問題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・心の相談窓口への「コロナで困っている」という相談は少ないが、他の健康相談等でしんどさを抱えている内容の相談がある。また、新型コロナウイルス感染症による社会的な影響を受けている場合、そのことに気づかず言語化できずに悩んでいるのではないかと感じることもある。</li> <li>・コロナ禍の3年間、医療現場では奮闘する日々が続いている。また、コロナ以外の相談もあり、医療機関等あらゆる場所で勤務している看護職へのサポートを継続していく必要性を感じている。</li> <li>・コロナ禍で社会全体が余裕のない状況になっているように感じる。特に若者の相談が増加しているように感じるが、周囲の家族(大人)も余裕がない状況にあるので、その対応も必要であると思う。</li> <li>・産業保健総合支援センターでは、事業所から労働者のメンタルヘルス対策への相談があった場合、当センターの産業保健相談員が対応している。</li> </ul> <p>(高齢者、子ども・若者、未遂者)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者に対してはコロナ禍では感染対策に十分配慮したうえで、民生児童委員が訪問活動や電話、手紙などを活用した見守り活動を行っている。</li> <li>・伊予市中山町における高齢者調査の結果から、認知症は自殺に関係していることが分かった。また、最近の研究ではコミュニケーションがうまくとれないことと認知症の相関が明らかになった。これらのことを踏まえた取組みも必要である。</li> <li>・産後うつ病対策として、保健師の家庭訪問の際にエジンバラ産後うつ病質問表を活用し、リスクの高い方への支援を実施。昨年10月からは産科医療機関の協力により、産婦健診時にも実施し、より早期に支援につながる仕組みとなった。</li> <li>・周産期の自殺対策においては、エジンバラ産後うつ病質問表を活用した取組みに加え、産婦人科と精神科との連携が重要になってくる。</li> <li>・子どもに対しては、電話やSNS相談を実施しており、希死念慮等の相談内容の場合には、直ちに関係機関や学校と連絡がとれる体制を整えている。</li> <li>・虐待相談では「相談ダイヤル189」の周知に努めている。子育て、家庭、親子関係等子どもや子育て全般の相談に対応するため「親子のための相談LINE」を開始した。</li> <li>・保健所では、救急医療機関に搬送された未遂者や家族等で支援への同意が得られた方に対して、入院中から支援を開始している。救急の医療現場で同意を得ることは容易ではないと思うが、保健所への支援依頼数は年々増加傾向にある。関係機関が連携、協力して未遂者本人や家族の状況に応じた見守り支援を行いたい。</li> <li>・医療現場での未遂者支援では、保健所への支援につなげるほか、かかりつけ医との連携や相談窓口の紹介等を行っているが、もっと何かできることがあるのではないかと考えることがある。</li> <li>・一番大事なことは「死にたい」と言えない人をどうフォローしていくか。「落ち込んでいる」と言われた時は「死のうと思っているのではないかと」と問いかけることも必要。リスクから目をそらさず、長く付き合っていくという対応をしている。</li> </ul> <p>(支援者)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時代の流れとともに相談内容も多様化し、相談員へのケアも必要であると感じる。</li> <li>・支援者支援の重要性は、日頃から痛感している。「死にたい」という話を聞くことは本当にしんどいことであり、まず支援者自身がしっかりと「しんどいこと」を認識することが必要。チームで支援を行い、支援者同士で分かち合いながら支援を進めていけるとよいと思う。</li> </ul> <p>3 その他  特に意見等なし</p> <p><b>【会長】</b>  人が自殺に追い込まれる要因は一つではなく、複数の要因により追い込まれてしまうため、自殺予防対策では様々な機関が重層的に関わるのが重要。各機関がそれぞれの強みを活かしながら連携して自殺対策を推進したいので、今後も協力をお願いしたい。</p>
------	--